◉「本物」とは、「仏様」とは

寂光院は境内全域が「飛騨木曽川国定公園・特別保護地区」にあります。「この自然環境」、これは「本物」に間違いありません。

寂光院は開山が白雉五年（六五四年）の古刹です。「名刹巡礼古寺百選」、古寺日本百選の一つが寂光院です。「仏様」とは、寂光院の御本尊「千手観音」様、これも間違いありません。

◉「本来の自分に出会う」

では、「本来の自分」とは何かですが、「とっさに現れるのが本来の自分の姿」だと思います。例えば、世界中の人がとっさに同じことをするといえば、熱いものに触れる時でしょう。「あっ！ち！ち！」といって、手を引っ込めます。どんなにすましておいでになる人でも熱いものに触れて、すましてはいられません。皆さん飛び上がります。どなたもこれが本来の姿だと思います。

私もよく散歩に出かけます。のんきに鼻歌歌って散歩するのですが、街角に「交通死亡事故現場」という看板が立っていて、その下に花がお供えされておりますと、なぜか身を正します。そしてすっと手を合わせて一礼して、また何食わぬ顔をして散歩を続けるのです。これはとっさの出来事ですから、きっとこれが私の本来の姿なのでしょう。



私は全国を移動する手段として、よく飛行機を利用しました。この四十年程の間にこんなこともありました。シートベルトをして身動き取れない座席でお隣の女性が苦しそうに咳き込まれたことがありました。そこで、私はすぐその方の背中に手をまわして、背中をさすって差し上げたことがございます。女房にしたこともないことですが、これもとっさの出来事です。そんなことが出来る優しい自分に出会って、自分でも驚きました。また横断歩道をうろうろ困っているお年寄りを見つけたことがございます。私は即、走り寄って、信号が変わらないうちに向こうまで一緒に渡って差し上げたということもございました。これもとっさの出来事です。自分にもこんな親切な心があるのかと自分ながら、おかしかったことがございます。

こんな私ですが、ある時は謙虚に、ある時は優しく、ある時は親切な、そんな仏さまのような心があるのだなと思ったものです。いやこれが人間の本来の姿なのでしょう。例外なくどなたも「仏さまの心」を頂戴して生まれて来るのです。

◉命・息の力・生きる力

さて、私どもは今生きています。生きているということは命があるということですが、命とは何かといえば、「息の力」、「生きる力」でしょうか。私は齢八十にもなりますが、八十年間、今の今まで、息のしっぱなしで休んだことがありません。八十年間「息の力、生きる力、命」が持続して今を迎えています。ではこの「息の力」は生まれたその瞬間に頂戴したのかというとそうではありません。生まれる直前まで十月十日の間、母が代わりに息をしてくれていました。私のこの一息、息の力、生きる力、命は母と繋がっています。当然父と繋がっています。ではどこまで繋がっているかといえば際限がありません。親のない子供は存在しませんから、どこまでも繋がっていきます。しかし、今があるというのは始まりがあったということですから、その始まりはどこだという回答は、人類の起源でしょうか、生命の起源でしょうか、ビッグバンでしょうか。一番の始まり「本源」といえばよいでしょうか。それをまた真言宗では「本不生（生があるから滅がある。生もない、本のままの状態）」、「大いなる宇宙」、「大いなる命」ととらえます。それを仏格化して《大日如来》、〈仏〉と呼んでいます。私たちは例外なく、「大いなる命、仏」から「息の力、生きる力、命」を頂戴し、連綿として絶えることなく命を受け継いで、今に至っています。

◉仏さまに祈る〈祈り〉

今のこの一息は、例外なく仏様につながっているのです。ということは、私たちは「仏としてのDNA、仏性」を頂戴し、「仏さまの心、仏心」、を頂戴して生まれてくるのです。普段気付かないことですが、それがとっさに現れるのが本来の自分の姿でしょう。私たちは、いろんな場面に遭遇して、とっさに仏心にスイッチが入ります、即、仏さまのような自分に戻ることが出来るのです。

本物に出会う、仏様に出会う、本来の自分に出会う

松平實胤